

一般社団法人 日本リハビリテーション工学協会

2012年度事業報告

日本リハビリテーション工学協会2012年度の経過

2012年度をもちまして、任意団体としての日本リハビリテーション工学協会は全て一般社団法人日本リハビリテーション工学協会として生まれ変わりました。これまでの会員の皆様のご協力とご支援に深く感謝いたします。

2012年度は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの開催、そして協会誌の発行という定例的な事業を各担当理事と関係者の尽力により円滑に実施することができました。また、バリアフリー展、HCR、西日本国際福祉機器展の各会場において、協会ブースの展示に加えて各種セミナーを開催し、好評を得ることができました。さらに、復興支援活動として、第1回復興支援講習会を盛岡市の岩手大学にて開催することができました。あいにく、東北6県以外からの参加者が少なく、被災地を訪れていただくという目的は叶いませんでしたが、多くの参加者にリハ工学に対する関心を持っていただくことができたと思います。ご協力いただいた、各SIGの皆様や協賛いただいた企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

国際的には、徳島アグリーメントに加え、韓国、台湾、シンガポール、タイなど東アジア各国の関係団体との交流が始まりました。経済発展の著しいこれらの国々はこれからリハ工学や支援技術に関する取り組みがますます高まっていくと予測されます。引き続き国際協力関係を深めていきたいと思っております。

ところで、任意団体の解散決議を昨年度の団体総会にて決議いただきましたが、2012年度途中での体制移行とせざるを得ず、SIG助成金の取扱い等につきまして、従来からの取り扱いを踏襲いたしました。過渡期の対応としてご理解くださいますようお願い申し上げます。

会長 相良二朗

1. 社員・会員

1-1. 法人社員・会員

2012年7月1日 社員（正会員）36名、学生会員18名、賛助会員数25社（89口）

2013年6月30日 正会員901名（うち社員（代議員）94名）、学生会員16名、賛助会員数23社（69口）

2. 事業

本法人の主たる事業は、リハ工学カンファレンスの開催、福祉機器コンテストの実施、協会誌の発行、SIG活動及び委員会活動である。以下に、各事業の2012年度の活動を報告する。2012年度は本協会が一般社団法人への統合を完了した。すべての事業は法人下に置かれた（図3-1）。任意団体は、2012年度中に清算作業が進められ、完了した。

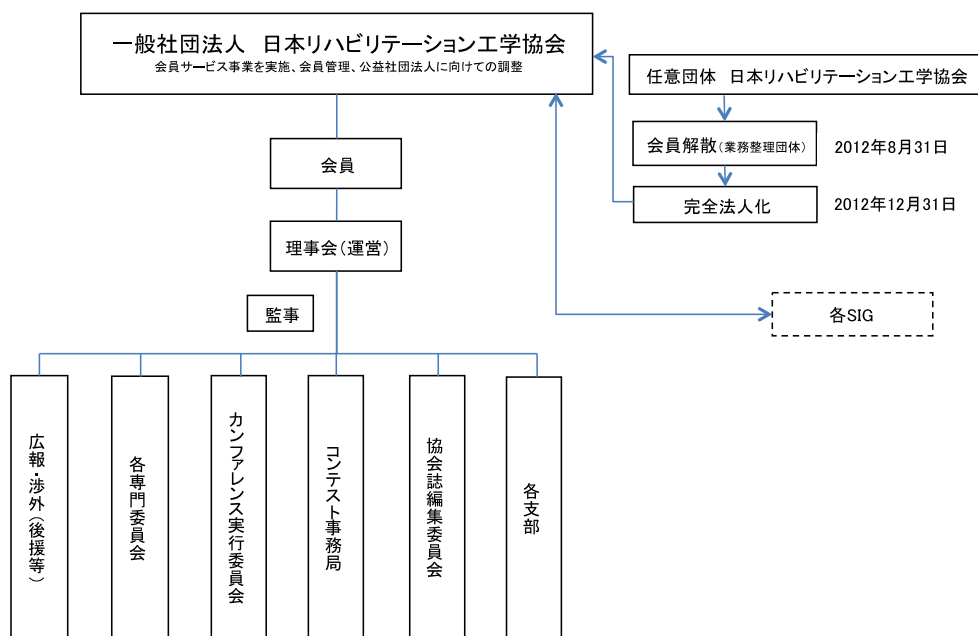


図 3-1 2012 年度の体制

2-1. リハ工学カンファレンス関連（担当理事：巴雅人）

1) 第 27 回リハ工学カンファレンス（福岡）の開催

テーマを「リハ工で縁活！ ～技術と知識がつながる機会～」と題して第 27 回リハ工学カンファレンスをアクロス福岡において、芝啓一郎氏（総合せき損センター）を大会長として 2012（平成 24）年 8 月 23 日（木）～25 日（土）に開催した。

会員・協賛団体、障害当事者、学生、リハ工学技術者及び研究者、医療専門職、社会福祉・教育・企業関係者が参加した。3 日間の参加者はスタッフを含み合計で 317 名（内、有料参加者 291 名、下記参照）であった。

参加種別	協会員 協賛団体	非協会員	学生	当事者発表枠・ 介助者（無料）	合計
第 27 回（福岡）	234 名	40 名	17 名	26 名	317 名

- ・ 研究発表等
 - 口頭発表：18セッション、98演題（うち、英語セッション、4演題）
 - インタラクティブセッション：23演題
- ・ 特別プログラム
 - ミニセミナー（車いす SIG・姿勢保持 SIG のご協力による）
 - 「車いすって大変？楽しい！～子ども達が自律移動を体感する意義と効果～」
 - 「最新の障害児用車いす・姿勢保持具のデザイン」
 - 「障がいがある子どもにとって動くということ」
- ・ 特別講演
 - 「自他のあわいに位置する道具について」 講演者：熊谷晋一郎氏（東京大学先端科学技術研究センター）
- ・ 機器展示
 - 参加企業 4 社による福祉機器展示（一般公開）
- ・ 福祉機器コンテスト 2012
 - 最終選考会ならびに一次選考通過作品の展示
- ・ 開会式、ウェルカムパーティ（懇親会）

2) 第 28 回リハ工学カンファレンス in いわたの開催に向け、実行委員長との覚書締結と開催準備を行った。

3) 今後のカンファレンスへの取り組み

第 29 回リハ工学カンファレンス開催地への打診を行った。

2-2. 福祉機器コンテスト関連 (担当理事：元田英一)

1) 福祉機器コンテスト 2012 の執行状況

- ・ 第一次選考会 2012 年 7 月 14 日 応募作品の書類・ビデオ審査 (於：横浜市総合リハビリテーションセンター)
- ・ 第二次選考会 2012 年 8 月 24 日 機器開発部門：プレゼンテーション審査、学生部門：書類・実物とビデオ審査 (於：リハ工学カンファレンス会場 (8/23~25 福岡市アクロス福岡))
- ・ 応募件数 全 56 件 (機器開発部門 42 件 学生部門 14 件)
- ・ 授賞件数 機器開発部門：最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件 選考委員特別賞 1 件
学生部門：最優秀賞 1 件 優秀賞 2 件
- ・ 発表・表彰 第 39 回国際福祉機器展 HCR2012 会場内 2012 年 9 月 28 日 (金)
- ・ 展示・広報
 - 第 39 回国際福祉機器展 HCR2012 2012 年 9 月 26 日 (水) ~28 日 (金) (表彰式/受賞作品の実物展示)
 - 第 14 回西日本国際福祉機器展 PPC2012 (北九州市) 2012 年 11 月 9 日 (金) ~11 日 (日) (受賞作品の実物展示)

2) 福祉機器コンテスト 2013 の実施

- 特別協賛：フランスベッド株式会社
- 協 賛：株式会社ケーブ、株式会社松本義肢製作所、東名ブレース株式会社、株式会社今仙技術研究所、株式会社モリトー、川村義肢株式会社
- 後 援：厚生労働省、経済産業省、公益財団法人テクノエイド協会、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)、日本福祉用具・生活支援用具協会、一般社団法人日本作業療法士協会
- ・ 福祉機器コンテスト 2013 選考委員会の設置 (2013 年 4 月 1 日 (月) ~)
- ・ 募集対象：機器開発部門, 学生部門
- ・ 広報開始・応募要綱配布：2013 年 4 月 18 日 (木)
- ・ 募集期間：機器開発部門：2013 年 5 月 1 日 (水) ~6 月 10 日 (月), 学生部門：2013 年 5 月 1 日 (水) ~7 月 8 日 (月)
- ・ 展示・広報
 - バリアフリー2013 (大阪) 2012 年度作品の展示と 2013 年度コンテストの広報 2013 年 4 月 18 日 (木) ~20 日 (土)

3) コンテスト発展のための取り組み

- ・ 協賛企業を 1 社増やし、財政基盤を強化した。
- ・ 応募作品のデータベース化を検討中である。

2-3. 協会誌関連 (担当理事：岩崎満男・高原光恵)

1) 協会誌発刊：以下の 4 号 (各 1000 部印刷) を発刊した。

- ・ Vol. 27 No. 3 2012/8 特集「世界で勝つーロンドンパラリンピックに寄せてー」
- ・ Vol. 27 No. 4 2012/11 特集「趣味・余暇の楽しみをひろげる機器」
- ・ Vol. 28 No. 1 2013/2 特集「ICF とアシスティブプロダクツ」
- ・ Vol. 28 No. 2 2013/5 特集「排泄の方法と支援技術ー外出の機会を広げるためにー」

2) 編集委員会の開催

発行にあわせ4回開催した（横浜市総合リハビリテーションセンター（1回）、新大阪丸ビル（3回））

3) 表紙デザインの変更

2013年2月発行のVol. 28 No. 1から表紙デザインを変更した。

4) 投稿論文掲載

2012年度、投稿13件（研究論文5、ショートペーパー2、研究報告2、技術報告4）あった。Vol. 27 No. 4に3件（技術報告）掲載となった。この掲載の内2件は公益法人化のために、協会誌への投稿増加施策として座長推薦を第26回カンファレンス（大阪）にて実施した推薦投稿である。

5) その他

2013年度（2013年4月1日～）から2年任期の編集委員を任命した。

2-4. 分科会・専門委員会（担当理事：高原光恵・岩崎満男）

- ・第27回リハ工学カンファレンス期間中に、分科会・専門委員会代表者会議を開催した。
- ・SIG助成金支給規程に基づき、SIG助成金を支給した。
- ・活動支援として展示会等での広報希望のとりまとめや協会誌への掲載を希望する資料のとりまとめを行った。なお、協会がかかわる活動でのセミナー開催時には、SIG、支部の協力を募り、他の担当理事と協力しながら活動の活性化につなげた。
- ・SIG、支部に関する規程を制定する予定であり、検討を進めた。

1) SIG活動への支援（外部協力団体として実施）

※ 参考 各SIG活動状況（会員数は2012年7月1日の人数（ ）内は協会員数を示す）

SIG姿勢保持 （会員数35歳(57名)）	SIG助成金支給額：44,385円
代表者：繁成（東洋大学）□	事務局長：中村詩子（北九州市立総合療育センター）
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催：2012年8月26日 熊本総合医療リハビリテーション学院（熊本市小山） ・セミナー開催 2013年6月 東洋大学朝霞キャンパス（埼玉県朝霞市） ・書籍（小児から高齢者までの姿勢保持・第2版8月出版）や資料集PDF版の販売 	
車いすSIG （会員数196歳(74名)）	SIG助成金支給額：50,000円
代表者：松尾清美（佐賀大学）□	事務局長：沖川悦三（神奈川県総合リハビリテーションセンター）
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催：2012年8月21・22日 国際医療福祉大学福岡天神キャンパス（福岡市） ・講習会開催：2013年1月12・13日 沖縄産業支援センター（那覇市） ・WEBサイト運営、テキスト発行（年2回）、分科会（BOG）活動、東日本大震災復興支援、移動機器フェスティバルへの協力、協会関西支部事業への協力、協会展示会出展への協力 他 	
自助具SIG （会員数11歳(9名)）	SIG助成金支給額：22,430円
代表者：岡田英志（ヒューマン）	事務局長：岡田英志（ヒューマン）
<ul style="list-style-type: none"> ・自助具SIG始動ミニフォーラム 2012年8月24日 開催アクロス福岡 ・自助具SIG広報「バリアフリー2013」 	
乗り物SIG （会員数5名(6名)）	SIG助成金支給額：21,290円
代表者：岩崎満男（オットーボックジャパン(株)）	事務局長：松尾清美（佐賀大学）
<ul style="list-style-type: none"> ・講習会開催：2012年8月26日 □障者・高齢者のモビリティに関する情報交換会 □ ヌバープラザ（春日市） 	
SIG褥う防止装置 （会員数48名(1名)）	SIG助成金支給額：26,245円
代表者：廣瀬秀行（国立リハセンター研究所）□	事務局長：河合俊宏（埼玉県総合リハセンター）
<ul style="list-style-type: none"> ・規約改正、役員選挙準備 	

（次ページに続く）

(前ページより)

コミュニケーションSIG (員数成7名 47名) 代表者：渡辺 崇史 (日本福祉大学) ・講習会①：2012年8月26日 (日) クローバープラザ (福岡県春日市) ・講習会②：2013年2月 第1回復興支援講習会参加 ・西日本国際福祉機器展スタッフ (1名) 派遣	SIG助金支給額：4 0,000円 事務局長：上野忠浩(横浜市総合リハビリテーションセンター)
SIG住いづくり (会員数95名成7名)) 代表者：橋本美芽 (首都大学東京) ・講習会開催：2012年8月22日 福岡市市民福祉プラザ ・講習会開催：東日本大震災復興支援講習会参加 2013年3月 岩手大学	SIG助金支給額：4 4,340円 事務局長：西村頭(横浜市総合リハビリテーションセンター)
特別支援教育SIG (員数成6名 6名) 代表者：松田靖史 (川村義肢株式会社) ・東日本大震災復興支援講習会参加 2013年2月 盛岡市 ・情報交換・情報収集 高知ふくし機器展 2013年6月 高知市	SIG助金支給額：2 0,000円 事務局長：高原光恵(鳴門教育大学)
移乗機器SIG (会員数118名(21名)) 代表者：古田恒輔 (神戸学院大学) ・移乗機器SIG講習会 2013年2月 6日 「アイデアの使い方」 (福岡市ふくふくプラザ) ・移乗機器SIG講習会 2013年5月 16日 「座移乗技術からリフト移乗まで」 (神戸学院大学) ・東日本大震災復興支援講習会参加 ・リフトフェア共催 (リフト連絡協議会) ・役員会実施	SIG助金支給額：2 5,430円 事務局長：加島 守(高齢者生活福祉研究所) (~2013.1) 青木久美子(宇部記念病院訪問リハビリテーション) (2013.2~)
義肢装具SIG (会員数189名(50名)) 代表者：早川康之 (北海道工業大学) ・第8回講習会開催：2012年8月25日 『歩く！』アクロス福岡608会議室 (福岡県福岡市) ・第1回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学協会講習会 盛岡 (岩手県盛岡市)	SIG助金支給額：4 1,830円 事務局長：砂野義信

(注)各 SIG から表記以外多数の活動報告を受けましたが、紙面の都合上割愛させて頂いたことをご了承下さい。

2) 支部活動

関西支部によるセミナー開催(「みんなで語ろう、車椅子の歴史から見る ひと・もの・暮らし」2012年11月17日：神戸市)をはじめ、九州・沖縄・山口支部設立に向けた準備委員会活動など実施された。

3) 専門委員会

2013年2月2日(土)～3日(日)国立大学法人岩手大学工学部にて第1回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 盛岡を開催した。協力SIGは、コミュニケーションSIG、SIG姿勢保持、車いすSIG、特別支援教育SIG、SIG住まいづくり、移乗機器SIG、義肢装具SIGである。定員120名のところ参加者90名の参加者があった。

2-5. 企画推進事業(担当理事：川村慶・金井謙介)

1) 学会展示会、広報活動強化

以下の展示会においてブース出展を行い、広報活動を行った。

- ・第39回国際福祉機器展(H.C.R.2012)(2012年9月26日(水)～9月28日(金) 於：東京ビッグサイト(東京都))
- ・第14回西日本国際福祉機器展(P.P.C.2012)(2012年11月9日(金)～11日(日) 於：西日本総合展示場新館(北九州市))
- ・バリアフリー2013(2013年4月18日(木)～20日(土) 於：インテックス大阪(大阪市))

2) セミナー開催

1) の展示会において出展社セミナーを開催し、普及活動および協会広報を行った。

- ・ 第 39 回 国際福祉機器展 H.C.R. 2012 出展社ワークショップにて、リハビリテーション工学基礎講座【支援機器、上手く使って自立度向上】を SIG の協力を得て 9/27 (木) に開催した。
- ・ 第 14 回 西日本国際福祉機器展 P.P.C. 2012 にて、出展社ワークショップを開催した。「リハ工学ディスカッション～道具で広がる世界～」と題して小林博光氏を講師に迎え、11 月 10 日 (土) ～11 日 (日) の 2 日間に協会誌「リハビリテーション・エンジニアリング」の同特集の講読会を行った。
- ・ バリアフリー 2013 において「車椅子の力学を体験する」と題して松田靖史氏を講師に迎え、4 月 19 日 (金) に出展社セミナーを開催した。参加者は 100 名程度であった。

3) 企画準備委員会 (仮称) 結成に向け、松尾清美氏 (九州・沖縄・山口支部)、麩澤孝氏 (全国頸随損傷者連絡会)、糟谷佐紀氏 (関西支部)、金井謙介理事 (事業統括・関西支部) にお願ひし、内諾を得た。

4) 一般社団法人日本リハビリテーション工学協会【試行版】ページを facebook 上に立ち上げた。

5) 2013 年 2 月 2 日 (土) ～3 日 (日) 国立大学法人岩手大学工学部にて第 1 回東日本大震災復興支援リハビリテーション工学講習会 in 盛岡を開催した。

2-6. 国際関連の事業 (担当理事: 大鍋寿一・古井透)

1) 第 27 回リハ工学カンファレンスにおける「徳島アグリーメント姉妹協会+韓国リハビリテーション工学協会 (RESKO)」ポスターを掲示した。

2) 各国との協力協定 (MOA) 締結関連

- ・ 協力協定 (MOA) 改訂版を RESKO 事務局へ提出した。
- ・ 台湾リハビリテーション工学会 (TREATS) から MOA の要望があった。2 国間 MOA ではなく、RESKO も入れた一括 MOA を希望し、RESKO に一括 MOA を提案中である。

3) 本協会として CSUN カンファレンス (Annual International Technology and Persons with Disabilities Conference) の Concertation 会議へ出席した (監事代理出席)。

4) RESKO 会場にて第 28 回リハ工学カンファレンスのポスターを掲示とチラシの配布を、RESKO にお願ひした。

5) 2013 年に RESKO より韓国で開催される i-CREATE (リハビリテーション工学と支援技術に関する国際会議) において、連携特別セッションを開催したいとのことであり、国際担当理事を中心に協力中である。なお相良会長は招待され、基調講演を行う予定である。

6) 欧州リハビリテーション工学協会 (AAATE) から WHO へ” Assistive Technology (支援技術)” に関する共同研究の提案を受け、他の徳島アグリーメント姉妹協会と共同で応募した。結果は採択されなかったが、来年度再応募するため 9 月開催の AAATE カンファレンス時に、打合せの方向である

3. 総務

3-1. 会則 (担当理事: 鈴木聖貴)

- 1) 代議員選挙、役員候補者選挙、役員選挙の規則の制定を行い、各選挙 (代議員選挙、役員候補者選挙) を実施した。
- 2) 2012 年度の定款変更にともない、施行細則などの規定の整備を行なった。

3-2. 法人化 (担当理事: 鈴木聖貴)

公益法人化に向けて、公益認定の流れを調査した。

3-3. 財務（担当理事：飯島浩）

- 1) 2012年度の財務管理(月次決算)及び年次決算の事務業務を実施した。
- 2) 完全法人化に向けて任意団体使用口座の精算と解約、新法人口座の開設を行い、法人使用口座の整備を実施した。
- 3) 法人化に向けて任意団体使用会計コードと法人使用会計コードの精査を行い、法人化に向けた適用会計コード表を整備した。
- 4) 新年度法人予算（案）作成の事務業務を実施した。

3-4. 総会・理事会等会議開催（担当理事：塚田敦史）

協会運営に必要な総会、理事会を実施した。

- 1) 2012年度定時社員総会の開催
 - ・ 日時：2012(平成24)年8月23日（木）11:15～12:15
 - ・ 場所：アクロス福岡（第27回リハ工学カンファレンス（福岡）会場）
- 2) 2012年度（法人）理事会の開催
 - ・ 7月、9月、12月、3月、6月に実施した。
 - ・ 定款第50条に基づき電磁的手段による臨時理事会を2回実施した（4月、5月）

【参考】

- ・ 2012年度任意団体総会の開催（任意団体にて実施）
 - 日時：2012(平成22)年8月24日（金）11:50～12:50
 - 場所：アクロス福岡（第27回リハ工学カンファレンス（福岡）会場）
- ・ 第127回～第131回（任意団体）理事会の開催
7月、9月、12月に実施した。

3-5. 広報・渉外（担当理事：古井透）

- 1) 各団体との折衝により、協賛、後援の依頼を受け、検討承認し、機器等の支援に対する共有・連携を行った。

- 2) 後援・協賛事業（主催団体と内容）

2012年度は、以下の事業の後援・協賛を行った。

No.		団体名	開催日程	内容
1	後援	社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団	2012/7/27～28	ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2012～福祉を支える人とテクノロジーの総合展～
2	後援	一般社団法人日本福祉のまちづくり学会	2012/8/25～27	日本福祉のまちづくり学会 第15回全国大会
3	後援	バイオフィリア リハビリテーション学会	2012/8/25	バイオフィリア リハビリテーション学会 第16回大会
4	協賛	NPOヒューマンインタフェース学会	2012/9/4～7	ヒューマンインタフェースシンポジウム2012
5	協賛	社団法人日本生体医工学会	2012/9/7～8	生体医工学シンポジウム2012
6	後援	株式会社中国新聞社	2012/9/8	支援技術が支える当たり前の生活・社会参加～「いのち・わざ・おもい」をかたちに～（シンポジウム）
7	協賛	公益社団法人計測自動制御学会	2012/9/19～21	第27回生体・生理工学シンポジウム
8	後援	一般社団法人ナンフェス	2012/9/23	ウォーク&ランフェスタ2012

(次ページに続く)

(前ページより)

No.		団体名	開催日程	内容
9	協賛	日本生活支援工学会、一般社団法人日本機械学会、ライフサポート学会	2012/11/2 ～4	生活生命支援医療福祉工学系学会連合大会2012 (LIFE 2012)
10	協賛	西日本国際福祉機器展実行委員会	2012/11/9 ～11	PPC2012第14回西日本国際福祉機器展
11	協賛	臨床歩行分析研究会		第35回臨床歩行分析研究会定例会
12	協賛	一般社団法人日本人間工学会	2012/12/1 ～2	日本人間工学会 関東支部第42回大会
13	協賛	感覚代行研究会	2012/12/3 ～4	第38回 (2012年) 感覚代行シンポジウム
14	協賛	バイオメカニズム学会	2012/12/15 ～16	第33回バイオメカニズム学術講演会
15	後援	宮城県介護研修センター	2013/1/12	平成24年度福祉用具・介護ロボット実用化支援事業シンポジウム～テーマ『ユーザーニーズに基づく着想と商品開発そして活用へ』
16	後援	日本チェアスキー協会	2013/2/28 ～3/3	第34回日本チェアスキー大会 -みんなのすきーきょうしつ-
17	協賛	特定非営利活動法人モバイル学会	2013/3/7～ 8	シンポジウム「モバイル`13」
18	後援	南多摩保健医療圏地域リハビリテーション支援センター	2013/3/16 ～17	平成24年度 福祉用具適合講習会『南多摩福祉機器展』
19	後援	国立障害者リハビリテーションセンター	2013/3/20	第7回認知症のある人の福祉機器シンポジウム
20	後援	国立障害者リハビリテーションセンター	2013/3/20	重度肢体不自由者用ロボットアームのコストベネフィット評価第3回公開研究会
21	後援	広島国際大学	2013/5/18 ～19	広島国際大学 2013年度 春の健康フェア
22	協賛	一般社団法人日本人間工学会	2013/6/1～ 2	日本人間工学会 第54回大会
23	後援	一般社団法人日本作業療法士協会	2013/6/28 ～30	第47回日本作業療法学会

4. 事務局 (担当理事：沖川悦三)

- 1) 法人事務局事務所立上げおよび法人への完全移行に向けての事務所、事務局備品 (コピー機、紙折り機など) 整備を行い、また電話 (FAX) 専用番号導入を行った。
- 2) ホームページの運営管理
 - ・法人化後から法人統合に向け運営管理を検討・実施した。
 - ・URL を <http://www.res.ja.or.jp> に統一した。
- 3) メールニュース
 - 月1回以上を原則とし23通の配信を行った。

